

人間発達学

[講義] 第2学年 前期 必修 2単位

《履修上の留意事項》必要に応じて教材動画をクラウドを通じて共有することがあるため、講義参加時にICT機器の準備が必要な場合は事前に周知する。

講義進行の妨げになるような行為が見られた場合は退席を命じ、出席を認めないことがあるため注意すること。

《担当者名》 大須田祐亮 osuda@hoku-iryo-u.ac.jp 依田泰知 小林健史 辻村礼央奈 鎌田樹寛

【概要】

誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかを教授する。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージからの視点、形態・機能的側面からの視点、さらには認知のおよび情緒・社会的側面からの視点をもとに学習し、人間発達に対する総合的な理解を深める。

【学修目標】

【一般目標】

人間がどのように発達するのか、どのような要因が発達に影響するのかを説明できる。

様々なライフステージを生きる人間を認識するために必要な基本的知識を理解することができる。

【行動目標】

1. 人間発達学の対象領域について説明できる。
2. 各ライフステージにおける発達について説明できる。
3. 各機能の発達について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	総論	人間発達学の概要について学ぶ。	大須田祐亮
2	中枢神経系・内部機能	脳・神経系、内部機能の発達に伴う変化を理解する。	大須田祐亮
3	胎生期・新生児期	胎児期から新生児期の正常発達について理解する。	大須田祐亮
4	粗大運動（原始反射の基礎、0-6Mの粗大運動発達）	姿勢反射・反応について学び、その意義について理解する。 0～6ヶ月までの運動発達について理解する。	大須田祐亮
5	粗大運動（7-18Mの粗大運動発達、身体機能の加齢に伴う変化）	7～18ヶ月までの運動発達について理解する。 乳児期から青年期にかけての身体的発達、運動機能の発達を理解する。	大須田祐亮
6	認知機能（感覚・知覚・認知）・発達理論と発達検査	認知的機能の発達を理解する。 発達理論の基本的概念と、各発達段階の課題を学ぶ。	依田泰知
7	認知機能（感覚・知覚・認知）・発達理論と発達検査	認知的機能の発達を理解する。 発達理論の基本的概念と、各発達段階の課題を学ぶ。	依田泰知
8	遊び・上肢機能（把握、手指操作）	遊び・上肢機能の役割と発達について理解する。	依田泰知
9	ADL（更衣、排泄、描画、書字）	ADLの発達について理解する。	依田泰知
10	乳幼児期・学童期の社会性	乳幼児期・学童期における社会性の発達について理解する。	小林健史
11	言語機能	乳幼児期・学童期の言語の発達について理解する。	小林健史
12	摂食・嚥下機能・構音	摂食・嚥下機能や構音の発達について理解する。	辻村礼央奈
13	青年期・成人期の社会性	青年期・成人期における社会性の発達について理解する。	辻村礼央奈
14	老年期の精神機能や社会性	老年期における社会性の発達学的観点からその特徴について理解する。	鎌田樹寛
15	老年期の身体機能	老年期の身体機能の変化について理解する。	大須田祐亮

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験） 100%

試験に関するフィードバックの方法

- ・定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には対応する。

【教科書】

15レクチャーリハビリテーションテキスト 人間発達学 総編集：石川朗 中山書店

【参考書】

イラストと動画で学ぼう！人間発達学 編集：笹田哲 診断と治療社

【学修の準備】

毎回の講義前に、講義内容について教科書等であらかじめ予習しておくこと（80分）。
復習はプリント、講義メモなどを活用して学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

大須田祐亮（理学療法士）

依田泰知、鎌田樹寛（作業療法士）

小林健史、辻村礼央奈（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、福祉機関等での臨床経験を活かした教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している